

が、単に帝国図書館の内部だけの問題ではなく、当時存在していた出版警察法制と直接にかかわるものであったことを看取することができた。その意味で以上は、戦前期出版警察法制の一側面といえるものである。

なお、本稿は前稿同様、図書館を通してみた出版警察法制の一側面について、あくまでも「素描」を試みたものである。以上で明らかになった実態をさらに出版警察法制の全体の中に位置づけをなして考察することは、つぎの課題であろう。また、世界的にみれば、検閲の問題は、人類社会が始まってから今日に至るまで、常に重大な問題として存在し続けている。本稿が対象とした一九世紀後半から二〇世紀前半にかけても、各国において様々な検閲をめぐる問題が展開されていた。わが国のこれらの動向が、同時代の世界の流れの中でさらに検討されることも、つぎの課題であろうと思われる。

本稿の執筆にあたって、西村正守氏、佐野力氏、菊地和子氏から資料上多くの教示を得たことに感謝する。

おおたき・のりただ
 コロンビア大学東亜図書館(出向中)
 つちや・けいじ
 調査及び立法考査局文教科

レファレンス事例

質問 伊藤銀月の著作リスト(県立図書館)

回答 当館所蔵の伊藤銀月の主な図書を次におしらせします。

『詩的東京』 曙光社 明34 (三〇一七五)

『最新東京繁昌記』 上巻 内外出版会 明36 (九六一七六)

『人情観的日本史』 文禄堂 明37 (四五―四三二)

『百字文の栞』(伊藤銀月編) 文学同志会 明38 (九八一―四

五)

『つき影』 如山堂書店 明38 (九八一―六五)

『太閤記』 文禄堂 明38 (九九―一六四)

『百字文粹』 伊藤銀月編 百字文会 明39 (九四―四二二)

『予の半面』 弘道館 明39 (二四〇―七二二)

『銀月文』 楽山堂書房 明42 (七二―三三四)

『伊藤博文公』 千代田書房 明42 (七二―三五九)

『海舟と南洲』 千代田書房 明42 (七二―三五八)

『南朝と北朝』 千代田書房 明43 (七二―三九四)

『秀吉と家康』 全2冊 千代田書房 明42・43 (七二―三四

六)

『日本警語史』(伊藤銀月編) 実業の日本社 大7 (三七六一

一〇二二)

(参レ 一八〇七)